



TITLE:

人口論ノ學問上ノ性質 (まるさす生
誕百五十年記念号)

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 人口論ノ學問上ノ性質 (まるさす生誕百五十年記念号). 經濟
論叢 1916, 2(5): 1-8

ISSUE DATE:

1916-05

URL:

<https://doi.org/10.14989/127014>

RIGHT:

人口論ノ學問上ノ性質

法學博士 戸田 海市

まゐるさすノ經濟學上ノ研究ハ汎ク諸方面ニ亘ツテ居ルガ、氏ヲシテ學問上偉大ナラシメタノモノハ、其ノ人口増加ニ關スル研究テアル。此研究タルヤ實際經濟學ノ進歩ヲ促シタルコト甚タ大ナルニ係ハラス、嚴正ニ云ヘハ經濟學ノ固有ノ領分ニ屬スルモノト見ルヲ得ナイ。經濟學少クトモ理論經濟學ハ經濟行爲ニ付テ、即チ有形貨物ノ獲得ニ付テ起ル所ノ社會的關係ヲ研究スル學問デアル。然ルニ一國ノ人口ナルモノハ之ヲ生産者又ハ消費者トシテ觀察シテモ、國土ヤ氣候ヤ國家組織ト同シク國民經濟ノ基礎的事實ヲ爲スモノテアツテ、此等ノ事實ニ關スル研究ノ結果ハ經濟學ノ爲メニ必要ナモノテアルト同時ニ、又此等ノ事實ノ研究ヲ進メルニハ經濟學ノ力ヲ必要トスル場合モアツテ、兩者ノ關係ハ頗フル密接ナルモノテハアルガ、併シ其研究ヲ以テ直チニ經濟學ノ本領ニ屬スルモノト云フヲ得ナイ

まゐるさすノ人口研究ハ多クノ學者ノ認ムルガ如ク生物學ノ發達ニ大ナル影響ヲ與ヘタモノトシテモ、人口ノ研究ヲ以テ直チニ生物學即チ自然科學の研究ニ屬スルモノト云フヲ得ナイ。人口ノ増加ハ一般生物ニ通有ナル生殖慾満足ノ作用ニ基ツキ、又其増加ハ一般生物ノ場合ト同シク營養物ノ存在量ニ由テ制限ヲ蒙ルモノテアルガ、併シ人間ノ食物ハ禽獸草木ノ營養物ノ如ク自然ノ

存在物ヲナク、主トシテ人間自カラ生産スルモノデアリ、又進歩セル人類ノ生存及増殖ニハ食物ノ外ニ衣服住居其他多數ノ有形無形ノ境遇條件ノ存在スルコトヲ必要トスルガ、其存在ハ人間自身ノ意思ノ働キニ係ハルコトカ多イ。更ニ人間ハ自己ノ意思ニ由テ人口ヲ増加スヘキヤ否ヤヲ決スルニ付キ大ナル力ヲ有シ、此點ニ付テ之ヲ一般生物ト同視シ得サルコトモ明カテアル。只タ人間ハ可ナリ大ナル生殖能力ヲ有スルニ反シ、食物其他ノ生活必要物ノ生産高ヲ増加スル力ハ多クノ場合ニ於テ之ニ及ハナイ。特ニ人口ノ相當ニ稠密ナル地方ニ於テハ收穫漸減法則ノ強ク行ハレル爲メニ食物ノ生産ヲ増加スルコトカ困難テアル。故ニ人間自カラ進ンテ人口制限ヲ行ハサルトキハ、人口ハ食物存在量ニ由テ強制的ニ制限セラレルコトトナル。此場合ノ人口増加ノ制限ハ一般生物カ其營養物ノ存在量ニ由テ増殖ヲ制限セラルト頗フル相類スルコトトナルノデアアルガ、併シ理論上人口ノ増加ハ生物ノ増殖ト同視スヘキモノテナク、之ニ關スル法則ハ生物學的テハナクテ歴史のノモノテアル

文化ノ程度低キ時代ニ於テ人間ハ一方ニ食物ヲ増加スルノ能力ニ乏シク、他方ニハ自カラ進ンテ人口ヲ制限スル克己節制ノ力ニ乏シキ故、其人口増加ノ制限セラルル状態ハ頗フル生物増殖ノ上ニ行ハル制限ニ類似セルニ反シ、人間ノ進歩スルニ從ツテ食物ヲ増加スルノ能力カ進歩シ、收穫漸減法則ノ行ハル場合ニ於テモ食物以外ノ必要物生産ノ能力カ大ニ増加シ、之カ爲メ其勢力ノ大ナル部分ヲ食物ノ生産ニ利用シテ其供給ヲ豊富ニスルコトヲ得ルト同時ニ、生殖ニ關スル節制力モ増加スル故、其人口増加ノ状態ハ大ニ生物増殖ノ夫レト異ツテ來ル

まるさすハ人口ノ増加カ此ノ如キ歴史的变化ヲ爲スコトヲ認メタガ、當時ノ英人ヤ其他ノ文明國民ニ付テハ尙ホ生殖上ノ節制ノ甚タ不十分ナルコトヲ感シ、大ニ其節制ヲ強ムルノ必要ヲ主張シタ。即チまるさすハ當時ノ人口増加ノ狀態ヲ以テ尙ホ餘リニ生物的ナリト感シタノテアル。世人ハ往々まるさすヲ以テ人口ニ關シ冷酷ナル學說ヲ立テタ學者テアルト云ヒ、特ニ經濟制度上ノ革命主義トシテ當時ノ思想界ニ現ハレタ所ノ共產主義ニ反對シテ個人主義ヤ私有財産ヲ辯護シタ事實ヨリシテ、氏ヲ以テ冷酷ナ學者テアルト信スルノテアルガ、併シ氏ノ研究上最モ力ヲ盡シタ點ハ、如何ニシテ下層民ノ地位ヲ改善シ得ヘキヤノ問題テアツテ、之ヲ解決スル最モ重要ナ方法ハ下層民自カラ覺醒シテ無謀ナル人口増加ヲ制止スルニ在リトノ結論ニ達シタ。氏ハ在來ノ社會政策上重キヲ爲シタ救貧慈善ノ制度カ此目的ノ爲メニ甚タ不十分ナルノミナラス、寧ロ有害ナルコトヲ認ムルト同時ニ、共產主義ヲ行フコトトシテモ人口ノ大ナル部分ヲ占ムル下層民カ自カラ人口制限ヲ行フニアラサレハ、社會全體ノ福利ヲ増進シ得サルコトヲ主張シタノテアル

まるさすノ死後約半世紀ヲ經テ世界ノ經濟ハ非常ナ變化ヲ呈シタ。特ニ交通ノ偉大ナル發達ニ由テ從來白人種カ世界ノ各地ニ企テタ植民事業カ大ナル効果ヲ生シ、其廣大ナル處女地ノ廉價ナ農產物カ蕩々トシテ人口稠密ナル歐洲舊國ニ入り來ルコトトナリ、今日尙ホ白人カ食物生産ノ爲メ有利ニ開發シ得ヘキ土地ハ多大ニ殘存シテ、收穫漸減法則ノ壓迫ハ未タ容易ニ來ルノ恐レカナイ。之ト同時ニ彼等ハ其生産力ノ大ナル部分ヲハ收穫漸増法則ノ行ハルコト多キ工業ノ方面ニ注クコトトナリ、之カ爲メ其上下階級ヲ通シテ大ナル所得ノ増加ヲ來タシタニ係ハラス、一方ニ

ハ下層民ニマテ文化ノ普及スルニ從フテ生殖ニ關スル制限カ次第ニ強マツテ來タ。最モ彼等ノ實行シツツアル人口制限ハ盡ク之ヲまるさすノ主張シタ道德的節制ト稱シ得ヘキヤハ一疑問テアルガ、兎モ角此制限ノ強マツタ爲メニ今日ハ人ヲシテまるさすトハ反對ニ人口増加率ノ減少ヲ憂ヘシムルニ至ツタ。要スルニ今日ノ白人諸國ノ人口増加ノ狀態ハ生物増殖ノ夫レト著シク異ツテ來タノデアル

戰爭ト人口トノ關係ニ付テ見テモ、古ヘハ大戰争ノ爲メニ多クノ人口カ減少スレハ之ニ次テ人口増加率カ急ニ高マリ、之カ爲メニ一國ノ人口ハ割合速カニ恢復シタ例カ多イ。是レニハ種々ノ原因モアルテアラウガ、其主ナル原因ハ經濟上ノ變化テアル。古ヘハ一國ノ人口カ農業ヲ以テ主タル生業ト爲シ、又一國ノ生産財モ主ニ農業地ヨリ成立ツテ資本ハ少ナカツタ。然ルニ大戰争ノ爲メ多クノ人口カ減少シテモ耕作地ハ別段ニ減損シナイ。故ニ人口カ稠密ナ爲メニ最早ヤ收穫漸減法則ノ行ハレツツアツタ舊國ニ於テハ、戰爭後ニハ食物ノ總生産高ハ幾分減少シテモ其ノ一人當リノ生産高ハ増加シ、其結果ハ人口増加ヲ刺撃スルコトトナツタ。其狀ハ恰モ一定ノ地域内ニ生息スル禽獸カ何等カノ原因ニヨリ一時多數ニ撲殺セラレタ場合ニハ、後ニ殘ツタ禽獸ノ個々ニ對スル食物ノ割合カ増加スル爲メ急ニ其増殖率カ高マルノト相類スル。目下ノ歐洲戰爭ハ多大ノ死傷ヲ生シツツアルガ、此戰爭終了後歐洲先進國ニ於テ矢張り舊時ノ如ク急激ニ人口増加率カ高マルニ至ルヘキヤハ大ナル疑問テアル。其理由ハ第一ニ著シク商工業化シタ此等ノ國ニ於テ生産財ノ重ナルモノハ農地テナクテ資本テアリ、又人口ノ多數モ商工業ニ從事シツツアル。然ルニ今次

ノ戰爭ニ由テ資本ノ消滅セル割合ハ實ニ巨大ナルモノテアツテ、到底戰死ニ由ル人口減少ノ比テハナイ。故ニ假令ヘ戰後當分ノ間ハ諸般ノ復舊事業ノ爲メ好景氣ヲ呈シ、從ツテ勞働ニ對スル需用モ相當ニ多クナルトシテモ、常態トシテハ其經濟界カ不振ニ陥リ、之カ爲メ勞働ニ對スル需用モ衰ヘサルヲ得ナイ。戰後勞働者ニ對シテ種々ノ救濟策カ行ハレ、又勞働者自身モ大ニ其利益擁護ノ爲メニ運動スルテアラウガ、併シ大體ニ彼等ノ所得ハ減少スルノ危險カ甚タ多イ。又輓近彼等ノ間ニ益強マリツツアツタ人口制限 風習ハ、此戰爭ノ爲メニ衰ヘルトハ考ヘラレナイ。寧ロ一層強マルノ危險カアル。尙ホ茲ニ注意スヘキハ一體ニ男子ハ女子ニ比シテ性慾ノ強キ者テアルガ、舊時ハ男子カ女子ニ對シテ大ナル支配權ヲ振ヒ、女子ハ生活ノ爲メニ婚姻スルト云フ有様テアツタガ、近來先進國ニ於ケル女子ノ地位ハ大ニ高マリ、特ニ職業ニ從事シテ獨立自活スルノ能力カ強クナリ、之カ爲メニ人口制限モ盛ントナツタノテアルガ、今次ノ戰爭ニ由ツテ必要上多年ノ因襲カ破ラレ、多種ノ職業カ女子ニ對シテ新タニ開放セラレタ。故ニ戰後ニ於ケル女子ノ經濟上ノ地位ハ益高マリ、從ツテ人口制限モ強マルテアラウ

歐洲先進國ニ於ケル人口増加ノ狀態ハ此ノ如ク一般生物増殖ノ狀態ト益遠リツツアルガ、他ノ諸國民モ之ト同一テアルトハ云ハレナイ。我國ニ付テ見ルモ、近來上中層階級ノ間ニハ人口制限ノ風習カ次第ニ強マリツツアルトシテモ、全體ニ於テ此風習ハ尙ホ甚タ微弱テアルト同時ニ、日本人ノ主食物タル日本米ノ供給ニ付テハ、將來モ收獲漸減法則ノ可ナリ強ク行ハレツツアル内地ノ農業ニ主トシテ依賴セザハナラヌモノトヘレハ、我人口ハ食物供給ノ方面ヨリ相當ニ壓迫ヲ

蒙ムラ子ハナラヌ。要スルニ人口増加ノ狀態ハ國ニ由テ異リ、文化ノ程度低キ國民ニ在テハ頗フル生物増殖ノ狀態ニ類似シテ居ルトハ云ヘ、其研究ヲ直チニ生物學的ニ取扱フコトハ出來ナイ。人口ヲ研究スルニハまるさずノ爲シタ如ク其増減ニ注目スルコトハ勿論必要テアルガ、一面ニハ人口ヲ其構成部分ニ分解スルコトニ由リ靜的ニ之ヲ研究スルコトモ等シク必要テアル。又人口ノ事實ニ關スル理論的ノ研究ノ外ニ人口政策ヲモ研究セ子ハナラス。此ノ如ク汎ク人口問題ヲ研究スル學問ハ生物學又ハ經濟學テナイトスレハ、更ニ統計學又ハ社會學ニ屬スルモノニアラスヤトノ疑問カ起ル。人口ト云フ觀念ハ人間ノ團體ヲ數量的ニ觀察スルヨリ起ルモノテアル。故ニ之カ研究ハ數量的觀察ヲ特色トスル所ノ統計學ト共通點ヲ有シ、又實際人口ニ關スル研究ノ中最モ進歩セルモノハ人口統計テアル。併シ乍ラ統計學ハ論理學ノ如キ方法學タルノ外ニ獨立ノ科學トシテノ存在ヲ有スルヤニ付テハ大ナル議論カアル。一部ノ學者ハ統計的方法ニ由テ汎ク諸般ノ社會現象ヲ系統的ニ研究スルコトヲ以テ統計學ナル獨立ノ科學トスヘシト云フ意見ヲ主張スル。併シ乍ラ輒近學問ノ進歩ニ伴フテ統計的方法ニ關スル智識カ次第ニ普及シ、自然科學ノ諸方面ニ於テモ今日ハ盛シニ此方法カ利用セララルニ至リ、之カ爲メ此研究方法ヲ多ク利用スルコトヲ以テ社會現象研究上ノ特色トスルヲ得サルニ至ツタ。加之諸般ノ社會的科學ノ研究ニ付テハ勿論、人口問題ノ研究ニ付テモ決シテ統計的方法ノミニ依頼シテ満足ノ結果ヲ得ルコトハ出來ナイ。特ニ人口研究カ進歩シテ獨リ其理論ノ部分ノミナラス、更ニ人口政策ニ付テモ大ニ研究ヲ進メルコトカ必要テアルトスルナラハ、此ノ如キ研究ノ全體ヲ以テ統計學ノ一部分ナリト云フハ當ヲ得ナイ。然

テハ人口研究ハ社會學ノ領分ニ屬スルモノニアテスヤト云フニ、若シ社會學ヲ以テ人ト人トノ結合ト云ヘル心理的ノ事柄ヲ研究スル學問テアルトスレハ、此心理作用ヨリ成ル所ノ團體ヲ數量的ニ觀タル人口ト云フ觀念ハ社會學ノ固有ノ對象トシテ適當ナモノテナイ。更ニ社會學ヲ一層汎キ意義ニ解シ、之ヲ以テ諸般ノ社會的科學ニ對シ並列的關係ニ立ツモノテナク、其上ニ位シテ之ヲ統括綜合スル所ノ學問テアルトスルナラハ、前述ノ如ク理論部及政策部ヨリ成ル所ノ廣汎ナル人口研究ハ此社會學ノ一部分ヲ爲スモノテナク、當然其下ニ位スル所ノ特種社會的科學ノ部類ニ入ルヘキモノテアル。要スルニ人口學ハ現在ノ諸科學ノ何レニモ屬スルモノテナクテ獨立ノ科學タル性質ヲ有スルモノテアル

人口問題ヲ系統的ニ研究スル學問ノ性質ハ前述ノ如ク理論上之ヲ獨立ノ社會的科學ト見ルコトヲ正當ナリトスルモ、其研究力從來ノ如ク不充分テアル間ハ實際ニ獨立科學トシテ重キヲ爲シ難ク、之カ研究ハ經濟學又ハ統計學、社會學等ノ研究者ノ附隨的事業ト見做サルルカ如キ狀態ニ在ルコトハ已ムヲ得ナイ。然ラハ今後人口ノ研究力大ニ進歩シテ獨立科學タルノ體面ヲ備フルニ至ルヘキヤト云フニ、先ツ人口ニ關スル各國ノ統計的調査事業ハ今後益進歩スヘキカ故ニ、人口研究ニ必要ノ材料カ益豐富トナリ又精確トナルニ至ルヘキハ疑ヲ容レナイガ、一面ニハ吾人カ人口問題ヲ研究スルノ必要ト興味トヲ感スルコト益強マルニ至ルヘキヤ否ヤヲ考ヘネハナラス。抑モ人口ト云フ觀念ハ個々人ノ有スル特質ヲ度外視シテ其量ニ重キヲ置クモノテアル。人口ノ觀念ヲ明確ニスルノ必要ヲ感シテ實際ニ人口調査ノ事業ヲ行フタ歴史ヲ見テモ、人頭稅ヲ徵收シ、又ハ成年男子ニ兵役ヲ課シ、或ハ各地方ノ人口ニ比例シテ代議士ノ數ヲ定ムルカ如キ場合テアツテ、此等

ノ場合ニハ何レモ特定ノ目的ヨリ個人ヲ平等者トシ、其實ニ由ラスシテ量ニ由リ之ヲ取扱フノテアル、元來文化ノ進歩ハ個性ノ發揮ト相伴フモノト云ハレル。從ツテ質ニ由ラス量ニ由テ人間ヲ取扱フコトハ將來益々不適當トナリ、其結果人口ト云フ觀念モ次第ニ重要ノ度ヲ失フニ至ルカ如ク見ヘルカ、併シ文化ノ進歩カ個人ノ平等化ト相伴フコトハ敢テ其差別化ト相伴フニ讓ルモノテナイ。此兩方面ハ相合シテ初メテ有意義トナルモノデアツテ、兩者互ニ相助クルニアラサレハ人類ノ進歩ハ望マレナイ。故ニ今後ノ世界ニ於テハ一國民又ハ其一階級ニ屬スル個人ヲ平等視スルヨリ起ル所ノ人口ノ觀念モ益重要トナル。例ヘハ今後ノ世界ニ於テ種族又ハ國民ノ間ノ競争ハ益激烈トナルテアラウカ、有形無形ノ世界交通ノ進歩ニ伴フテ各國民ハ平等ニ發達スルノ傾向カアル。換言スレハ後進國民カ急速ニ進歩シテ先進國民ニ追ヒ付カントスルノ傾向カアル。其結果各國民ノ勢力ハ其人口ノ大サニ比例スルノ傾向ヲ生シテ來ル。更ニ各國ノ内部ニ於ケル社會階級ノ關係ヲ見テモ、道德上及政治上個人ノ人格ヲ平等視スルノ傾向カ益強クナリ、特ニ各國ノ政策トシテ智德及經濟生活ニ付テ國民ノ最低限ナル標準ヲ立テ、各個人ヲシテ少クトモ此標準ニ到達セシメント努メツツアツテ、而モ此最低標準カ次第ニ高メラレツツアル。一面ヨリ云ヘハ國家ノ法制ナルモノハ凡テ此ノ如キ個人ノ平等化ヲ維持シ、且ツ向上セシメントスルモノトアルト見ルコトモ出來ル。此ノ如ク個人ノ平等化カ進ムトキハ、種々ノ社會階級ノ關係ヲ決定スルニ付テモ各階級人口ナルモノカ重要ノ標準トナラサルヲ得ナイ。要スルニ今後人口ナル觀念ハ其重要義ヲ減少セシテ益之ヲ増加スル。從ツテ人口ノ研究モ益進歩シ、早晚重大ナル一獨立科學タルノ實ヲ擧クルニ至ルテアラウ